

2005年度 春学期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は 2005 年 4 月に国立大学法人としてはじめての会計専門職大学院として開設された。本大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、このような人材を将来にわたり社会に提供し続けていくことである。この目的を達成していくために第一義的に重要なことは、会計大学院における教育であり、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要がある。

会計大学院は今年度 10 大学（先行して開設された 1 校を含む）新規開設され、これらの大学院における教育方法については手探りの部分が多く、未だ確固たる教育方法が確立しているわけではない。私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくための 1 つの手段として、毎セメスター終了後にカリキュラムと当該セメスターに開講された科目に関するアンケートを実施することとした。

このアンケート調査報告書は、在学生在が私たち教員に対して発信したメッセージに対する回答である。在學生はこの調査報告書を通じて、諸君が発したメッセージに私たちがどのような形で応えようとしているのか、私たちが今後会計大学院の教育をどのような方向へ進めていきたいと考えているのか、を理解して頂くことを希望する。

この調査報告書は、社会に対しても公開する予定である。その意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や将来私たちの学生を受け入れていただく監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に私たちの会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。私たち教員は、調査報告書の公開により、東北大学会計大学院へ関心が高まり、本大学院出身の学生が高度な分析能力を持つ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している。

今回のアンケート調査報告書は、2005 年度第 1 セメスター終了後に実施されたアンケートを集計したものであり、会計大学院にとって最初のアンケート報告書になる。私たちは、この結果を真摯に受け止め、私たちが目標とする会計大学院のあるべき姿に照らし、改善すべき点を見いだし、ここで得られた結果を今後の教育へと反映していきたいと考えている。

2005 年 10 月 20 日
東北大学会計大学院ワークショップ委員会

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、会計大学院の講義において平成17年7月11日より受講者に配布された以下の2種類のアンケートである。

- ①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」（巻末：付録1参照）
- ②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末：付録2参照）

これらのアンケートは講義中に配布され、平成17年7月19日から22日の間に経済学研究科事務室前に回収箱を設置して回収した（一部の講義では講義中に回収を行っている）。

両アンケートともに無記名であり、上記①は1学生につき1回限りの回答とした。上記②は、受講生が5人以上であるすべての講義について実施され（講義担当教員の希望により受講生が5名未満の講義についてもアンケートを実施している講義も一部存在する）、学生は受講している講義毎に回答を行っている。

本報告では、最初に上記①のアンケート結果を集計し、本会計大学院の教育システム全般に関する分析を行う。次に、上記②のアンケート結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行う。いずれのアンケートについても、分析結果に基づき、私たちが今後行うべき対応を述べることにする。

本報告では、アンケートにより得られたデータを可能な限り数量的・客観的に分析したいと考えている。そこで、上記①・②のアンケートにおいて設けている自由記述欄の内容については、ここで記載せず、カリキュラム委員会の資料とし、次年度のカリキュラムを編成する際の参考とする。また、上記②における科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目17の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は、担当教員に直接報告し、次年度以降の講義の参考として頂きたいと考えている。

3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」に関する分析

3.1. アンケートの実施状況

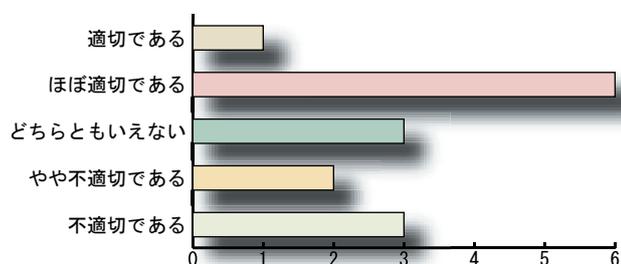
前期に開講された21科目の講義（履修者計343名）で配布されたが、会計大学院初年度のアンケート調査であり、回答者の数はやや少なく、公認会計士コースの16名から回答を得た。サンプル数が少なく十分な分析はできないが、以下では、それぞれのアンケート項目ごとに「集計結果」、「分析と所見」、「今後の対応」を示すことにする。

3.2. 集計結果・分析・今後の対応

質問項目2：基礎，展開，実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

集計結果

選択項目	回答数	割合
適切である	1	6.67%
ほぼ適切である	6	40.00%
どちらともいえない	3	20.00%
やや不適切である	2	13.33%
不適切である	3	20.00%
合計	15	100.00%



分析と所見

質問2については、「適切である」が6.67%、「ほぼ適切である」が40%であり、「やや不適切である」と「不適切である」の合計が33.33%となっている。肯定的な回答が否定的な回答をやや上回っていることが分かる。

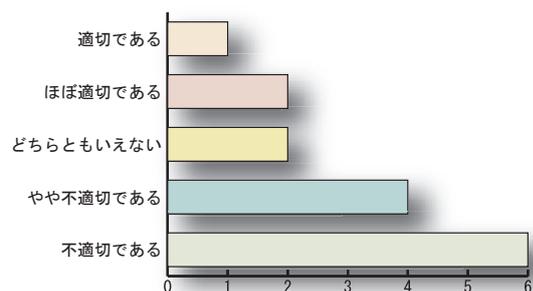
今後の対応

今セメスターに開講された科目の多くは「基礎科目」であり、今回のアンケート結果だけで判断するのは難しい。基礎，展開，実践・応用の科目配置については、次回以降のアンケートの結果を見ながら対応を考えていきたい。

質問項目 3：セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

集計結果

選択項目	回答数	割合
適切である	1	6.67%
ほぼ適切である	2	13.33%
どちらともいえない	2	13.33%
やや不適切である	4	26.67%
不適切である	6	40.00%
合計	15	100.00%



分析と所見

質問 3 については、「不適切である」が 40% で最も多くなっており、「やや不適切である」が 26.67% と続いている。

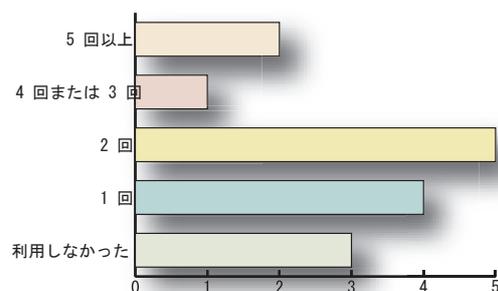
今後の対応

今セメスターは会計大学院が始まって最初のセメスターであり、学生は第 2 セメスター以降の講義を受講していない。このため、セメスター間の開講科目のバランスについてここで得られた回答がどれほどの意味を持つか、現時点で判断することは難しい。ただし、ここで得られた結果は、多くの学生が開設授業科目のセメスター間のバランスについて何らかの不満を持っていたことを意味しており、その原因を探り、今後もこの質問項目に着目しながら対応を考えていきたい。

質問項目 4：オフィスアワーを利用しましたか。教員に履修相談・質問等を行った回数を書いてください。

集計結果

選択項目	回答数	割合
適 5 回以上	2	13.33%
4 回または 3 回	1	6.67%
2 回	5	33.33%
1 回	4	26.67%
利用しなかった	3	20.00%
合計	15	100.00%



分析と所見

質問 4 については、「2 回」が 33.33%、「1 回」が 26.67%、「利用しなかった」が 20% となっている。5 回以上も 13.33% 存在するが、相対的にはオフィスアワーの利用回数は少ない。

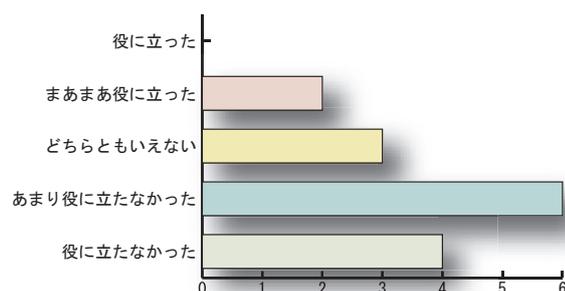
今後の対応

オフィスアワー利用回数の少ないことが、学生自身にとりわけ大きな問題がないからなのか、オフィスアワー自体が必要とされていないのか、学生を受け入れる教員の側に問題があるのか見極めていく必要がある。

質問項目 5：セメスター開始時に行われる履修指導は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

集計結果

選択項目	回答数	割合
役に立った	0	0.00%
まあまあ役に立った	2	13.33%
どちらともいえない	3	20.00%
あまり役に立たなかった	6	40.00%
役に立たなかった	4	26.67%
合計	15	100.00%



分析と所見

質問 5 については、「あまり役に立たなかった」が 40% で、「役に立たなかった」が 26.67% となっている。「役に立った」は 0%、「まあまあ役に立った」が 13.33% であり、この結果は、セメスター毎の履修指導が余り役立っていないことを示している。

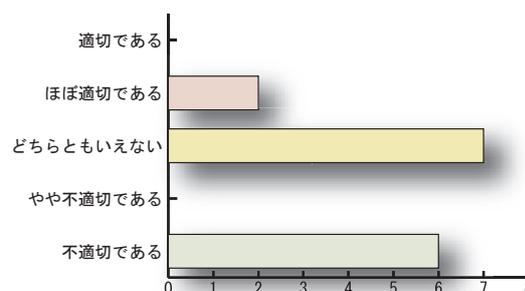
今後の対応

学生の立場から見てどのような履修指導が望まれているのかを検討し、今後の履修指導を行っていきたい。

質問項目 6：本大学院では GPA による成績評価を用いていますが、GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか。

集計結果

選択項目	回答数	割合
適切である	0	0.00%
ほぼ適切である	2	13.33%
どちらともいえない	7	46.67%
やや不適切である	0	0.00%
不適切である	6	40.00%
合計	15	100.00%



分析と所見

質問 6 については「不適切である」が 40% を占めている。「ほぼ適切である」が 13.33%、「どちらともいえない」が 46.67% となっている。会計大学院初年度の成績評価であるために、学生に不安を与えていたかもしれない。

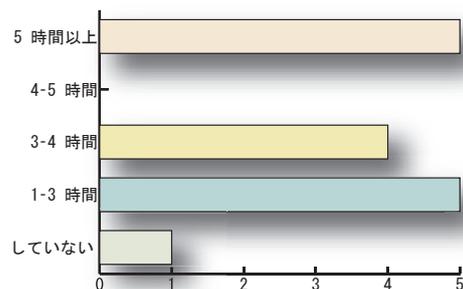
今後の対応

GPA による成績評価システムは、多くの学生にとって馴染みのないものであり、その有効性については今回のアンケート結果からだけで判断することは難しい。最初に行うべきことは、GPA が単なる成績表システムではなく、自己の成績管理システムであるという点を学生に理解してもらうことである。同時に、各教員が、学生の能力を適切に測定できるよう、シラバスに示されている成績評価基準を継続的に検討していくことも必要と思われる。

質問項目 7：受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらいかけていますか。

集計結果

選択項目	回答数	割合
5 時間以上	5	33.33%
4-5 時間	0	0.00%
3-4 時間	4	26.67%
1-3 時間	5	33.33%
していない	1	6.67%
合計	15	100.00%



分析と所見

質問 7 については、1 日に「5 時間以上」が 33.33%、「1-3 時間」が 33.33%。「3-4 時間」が 26.67% となっており、学習態度に個人差がみられた。

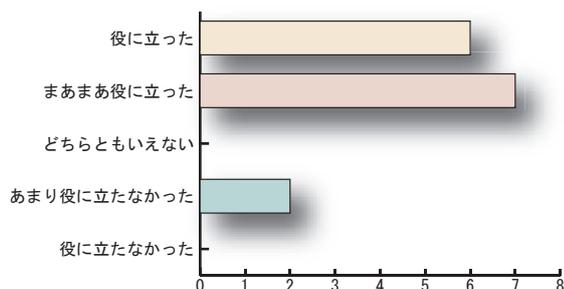
今後の対応

本大学院では、特に、公認会計士試験の受験に関連する科目について、1 回の講義当たり 4 時間～5 時間かかる宿題を課している。講義の予習復習・課題をこなした上で 5 時間以上の自主学習をやっているとすれば、これは喜ばしいことであるが、講義の予習復習や課題などを十分に行わず、受験のための自主学習をしているとすれば問題がある。次回のアンケートでは、この点を明らかにできるような形式を考えていきたい。

質問項目 8：会計大学院では、学生への連絡システムとして e-mail を用いていますが、この連絡システムは役に立ちましたか。

集計結果

選択項目	回答数	割合
役に立った	6	40.00%
まあまあ役に立った	7	46.67%
どちらともいえない	0	0.00%
あまり役に立たなかった	2	13.33%
役に立たなかった	0	0.00%
合計	15	100.00%



分析と所見

質問 8 については、「役に立った」が 40%、「まあまあ役に立った」が 46.67% で、肯定的な意見が圧倒的に多いことが分かる。

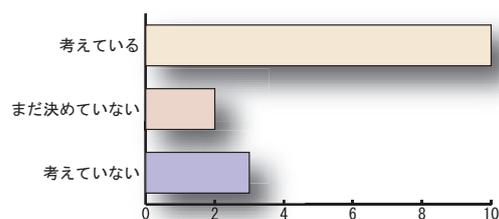
今後の対応

90% 弱の学生が e-mail による連絡システムを有用であると考えているので、今後もこのシステムを利用していきたい。

質問項目 9：在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか。

集計結果

選択項目	回答数	割合
考えている	10	66.67%
まだ決めていない	2	13.33%
考えていない	3	20.00%
合計	15	100.00%



分析と所見

質問 9 の在学中の受験についてであるが、「考えている」が 66.67% を占めており、積極的な受験姿勢がうかがえる。

今後の対応

在學生は平成 18 年度から始まる新試験を受験することになる。本会計大学院の本来の目的は、高度な分析能力を持つ職業会計人を 2 年間という修業年限で養成することであり、在学中の受験はこの本来の目的とは整合しないところもある。新試験制度における出題がどのような傾向になるのかについては、現時点においてまだ不確定な部分多い。しかし、6 割以上の学生が在学中の受験を希望している点を考慮すれば、新試験制度に関する情報収集に努め、これを学生に還元する形でサポートしていきたい。

3.3. 自己評価と今後の課題

- ① 本会計大学院で行っている、科目のレベルに応じた分類（基礎、応用、実践・展開）は概ね適当であると考えられる。ただし、今後、応用と実践・展開科目が開講されていった場合、この点に関する学生の評価がどのようになっていくかを注意していく必要がある。
- ② 質問 3 より、科目をどのセメスターで開講するかに関して、多くの学生は不満を持っていたことが伺える。セメスター間のバランスについては、今後年次進行に従い情報を収集し、今年度より検討を始め、平成 19 年度のカリキュラムに反映させていきたい。
- ③ 本会計大学院では担任制を用いているが、アンケートの結果を見る限り、担当教員と学生との間のコミュニケーションが頻繁に行われたとは言いがたい。学生とのコミュニケーションは、学生の学習状況や要望を把握する上で重要であり、今後、履修指導のあり方も考慮に入れながら、何らかの方法を模索していきたい。
- ④ 本大学院では、常勤の専任教員全てが担任となり、セメスター毎に履修指導を行っている。ほとんどの教員がこのような形で履修指導を行うのは初めての経験であり、履修指導の方法については、現在、試行錯誤しながらベストな形を模索している。セメスター毎に行われる履修指導では、各教員が行った履修指導の内容をレポートしてもらい、その結果を情報として共有することにより、本会計大学院における理想的な履修指導の形を求めていきたいと考えている。

4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

2005 年度前期における開講講義数は 27 科目であり、そのうち履修者が 5 名以上の講義（18 科目）と科目担当教員がアンケートを希望した講義（3 科目）についてアンケートが実施された（表 4-1 参照）。

授業科目名	履修者数	回収
財務会計 1	7	15
財務会計 2	31	17
簿記 1	20	8
簿記 2	23	11
国際会計基準	28	21
管理会計	22	12
原価計算 1	31	12
監査	29	12
経営管理	11	5
経営戦略	5	2
企業開示制度の仕組みと実際	19	9
企業ファイナンスの基礎	5	1
ビジネス・コミュニケーション 1	11	5
情報セキュリティ	17	14
統計学	15	7
計量経済分析	3	1
法人税法	28	9
ビジネス倫理	27	13
事例研究 1(証券取引行政)	3	0
外書購読 (コストマネジメント)	5	2
外書購読 (情報システム管理)	3	1
合計	343	177

表 4-1：アンケート実施科目と回収数

※注：上の表における「履修者数」は会計大学院学生の履修者数であり、経済経営学専攻の履修者を含んでいない。また、財務会計 1・財務会計 2・簿記 1・簿記 2・原価計算 1については学部学生の受講生も存在するが、上記「履修者数」には含めていない。

今回のアンケートでは、延べ履修者数 343 名に対して 177 名から回答を得た。アンケートの回収率は 51.60% であり、回収率は決して高いとはいえなかった。なお、質問項目 17 は科目担当教員が独自におこなう質問であり、質問項目 18 はすでに取得した資格に関するものなので、アンケートの集計には含めていない。

4.2. アンケートに関する基本統計量

各質問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため(質問1を除く)、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。その結果は以下のようになりである。

回答\質問	1 属性	2 出席	3 予習	4 復習	5 宿題	6 理解	7 難易度	8 教員準備	9 プレゼン	10 教材	11 板書機材	12 評価方法	13 シラバス	14 教員評価	15 対 試験	16 キャリア
5	121	149	5	13	47	30	71	95	98	81	67	71	34	95	53	73
4	16	17	4	7	21	90	55	41	38	44	53	47	48	43	43	50
3	26	6	13	14	24	31	27	20	17	26	32	35	52	18	35	33
2	11	1	17	41	37	13	12	11	13	11	18	11	25	9	15	5
1	1	3	44	65	19	13	12	10	10	14	7	13	17	12	29	11
0	0	1	92	35	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	175	177	175	175	173	177	177	177	176	176	177	177	176	177	175	172
平均値	4.40	4.72	0.90	1.61	2.80	3.63	3.91	4.13	4.14	3.95	3.88	3.86	3.32	4.13	3.43	3.98
中央値	5.00	5.00	0.00	1.00	3.00	4.00	4.00	5.00	5.00	4.00	4.00	4.00	3.00	5.00	4.00	4.00
最頻値	5	5	0	1	5	4	5	5	5	5	5	5	3	5	5	5

表 4-2：度数分布

質問項目間の相関関係をみるために相関係数の表を作成した。これは以下の通りである。

質問	1 属性	2 出席	3 予習	4 復習	5 宿題	6 理解	7 難易度	8 教員準備	9 プレゼン	10 教材	11 板書機材	12 評価方法	13 シラバス	14 教員評価	15 対 試験	16 キャリア
1 属性	1.00															
2 出席	.03	1.00														
3 予習	-.05	.11	1.00													
4 復習	-.17	.02	.40	1.00												
5 宿題	.02	.27	.16	.23	1.00											
6 理解	.03	.13	.03	.00	-.05	1.00										
7 難易度	-.07	-.01	.00	.07	-.14	.62	1.00									
8 教員準備	-.05	.01	-.04	.01	-.20	.63	.75	1.00								
9 プレゼン	-.21	.02	-.05	.03	-.07	.51	.67	.69	1.00							
10 教材	-.15	.00	.07	.05	-.18	.62	.68	.64	.64	1.00						
11 板書・機材	-.19	.00	.01	.07	-.07	.49	.71	.68	.75	.64	1.00					
12 評価方法	-.11	-.07	.14	-.03	-.17	.47	.53	.52	.44	.59	.49	1.00				
13 シラバス	-.17	.07	.14	.10	-.05	.47	.57	.43	.49	.56	.46	.47	1.00			
14 教員評価	-.19	.00	-.02	-.04	-.16	.56	.80	.74	.74	.72	.74	.53	.53	1.00		
15 対試験	.02	.10	.06	.19	-.05	.31	.41	.33	.32	.34	.40	.23	.28	.38	1.00	
16 キャリア	.01	-.01	.05	.00	-.11	.53	.62	.56	.58	.61	.60	.47	.50	.67	.53	1.00

表 4-3：相関係数

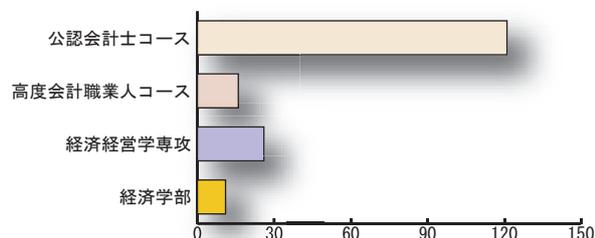
4.3. 質問項目ごとの集計結果と所見

回答の回収率が約 50% で、その絶対数も十分なものとは言えないため詳細な分析を行うことは難しいが、以下では、それぞれの質問項目について集計結果を示し、所見と今後の対応について述べることにする。なお、アンケート全体の集計結果については、巻末付録 3 を参照されたい。

質問項目 1：該当するものを選んでください（受講者属性）

集計結果

選択項目	人数	割合
公認会計士コース	121	69.54%
高度会計職業人コース	16	9.20%
経済経営学専攻	26	14.94%
経済学部	11	6.32%
合計	174	100.00%



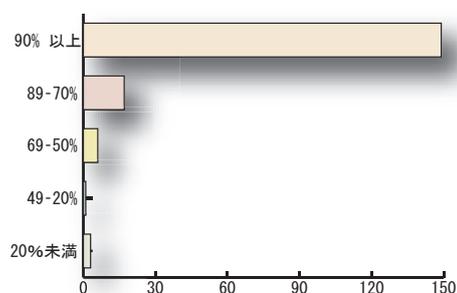
分析と所見

会計大学院では、会計学に関する基本的な科目を学部学生が履修できるようにしている、また、経済経営学専攻の学生も会計大学院の講義を履修することが可能である。このデータは、回収されたアンケートの約 2 割 (21.26%) が会計大学院以外の学生の回答を含んでいることを示している。

質問項目 2：この講義にどのくらい出席しましたか。

集計結果

選択項目	人数	割合
90% 以上	149	84.66%
89-70%	17	9.66%
69-50%	6	3.41%
49-20%	1	0.57%
20% 未満	3	1.70%
合計	176	100.00%



分析と所見

受講者のうち 84.09% の学生がほとんど毎回（出席率 90% 以上）出席していることを示している。

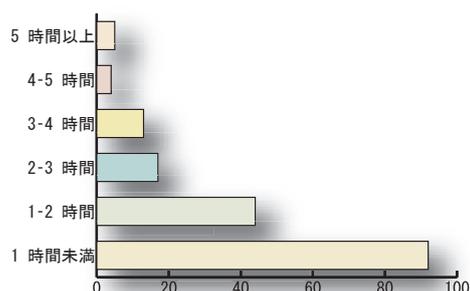
今後の対応

この結果は、会計大学院の学生の多くが、会計大学院の講義を学習の中心として据えていることを意味している。この意味で、今後ともこの出席率が維持されていくような講義を私たち教員が供給し続けていくことが重要と考える。

質問項目 3：この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか。

集計結果

選択項目	人数	割合
5時間以上	5	2.86%
4-5時間	4	2.29%
3-4時間	13	7.43%
2-3時間	17	9.71%
1-2時間	44	25.14%
1時間未満	92	52.57%
合計	175	100.00%



分析と所見

この結果は、受講者のうち半数以上 (52.57%) が 1 時間未満の予習時間で講義に臨んでいることを示している。

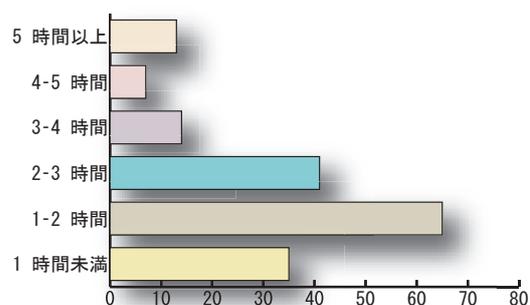
今後の対応

この結果は、半数以上の学生がほとんど予習をせずに講義を受けていることを示している。予備知識なしに講義を受けるのと、ある程度の予備知識を持って講義を受けるのとでは、後者の方が知識を深めるのに有効であることは明らかである。担当教員は、講義の中で予習の重要性を繰り返し説明する必要がある。また、課題を工夫し、予習が自然な形で行えるような課題を工夫するというのも 1 つの手段であると考えられる。

質問項目 4：この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか。

集計結果

選択項目	人数	割合
5時間以上	13	7.43%
4-5時間	7	4.00%
3-4時間	14	8.00%
2-3時間	41	23.43%
1-2時間	65	37.14%
1時間未満	35	20.00%
合計	175	100.00%



分析と所見

この結果は、半数以上の学生 (57.14%) が復習時間 2 時間未満であり、講義の復習に時間をかけていないことを示している。

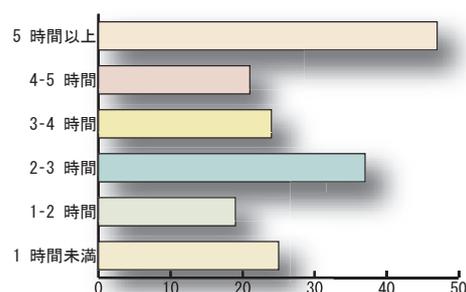
今後の対応

この結果は、多くの学生が講義の復習を十分に行っていないことを示している。しかし、講義の課題は講義の内容に関することなので、質問項目 5 を考慮すれば、53.17% の学生が 3 時間以上の復習を行っていることになる。また、科目によっては多くの課題を課さないものもあるので、この結果のみをみて、復習の時間が十分である、または、不十分であるとの判断を行うことは難しい。学生が復習にかける時間を正確に測定するためには、課題の分量などを考慮した質問を行う必要があると考える。次回以降のアンケートでは、この点を改善した質問項目を考えていきたい。

質問項目 5：この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか。

集計結果

選択項目	人数	割合
5時間以上	47	27.17%
4-5時間	21	12.14%
3-4時間	24	13.87%
2-3時間	37	21.39%
1-2時間	19	10.98%
1時間未満	25	14.45%
合計	173	100.00%



分析と所見

宿題に4時間以上かけている学生の割合は39.31%(68名)である。今期開講された科目で宿題を頻繁に課している科目の受講者のうちアンケートを提出した学生数は103名である。これは、宿題を頻繁に課している科目の受講者の約66%が、宿題をこなすために4時間以上の時間を費やしていることを意味している。

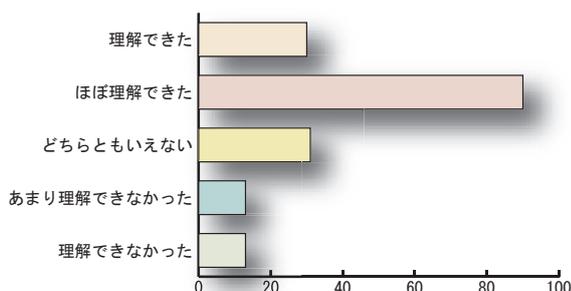
今後の対応

私たちは、課題について1回当たり4時間～5時間の分量とすることを目標としていた。この結果は、3分の2の学生が予定した通りの自主学習を行ったことを示している。ただし、科目によっては課題をこなすために6時間以上かかるケースも考えることができるので、5時間以上の学生について、どの程度宿題に時間を費やしていたかを把握する必要がある。次回以降のアンケートでは、質問項目4とともにこの質問項目についても、学生の自主学習時間を正確に測定できるような工夫をしていきたい。

質問項目 6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

集計結果

選択項目	人数	割合
理解できた	30	16.95%
ほぼ理解できた	90	50.85%
どちらともいえない	31	17.51%
あまり理解できなかった	13	7.34%
理解できなかった	13	7.34%
合計	177	100.00%



分析と所見

「理解できた」が16.94%、「ほぼ理解できた」が50.85%であり、7割弱(67.79%)の学生が講義内容を理解できたと考えている。

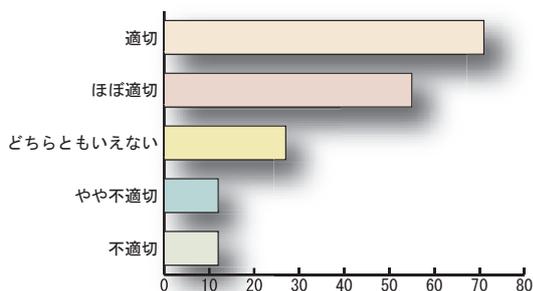
今後の対応

この結果は、7割弱の学生が講義の内容を理解できていると感じていることを示しているが、最終的な成績評価(GPA)や課題・小テストの結果を見る限り、7割弱の学生が講義の内容を理解しているとは考えにくい。今後、学生が感じる理解度と教員側の評価の間のギャップを埋める方策を考えていく必要があると考える。

質問項目 7: この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか。(この講義が、基礎、展開、実践・応用科目のどれに属しているかを考慮して回答してください)

集計結果

選択項目	人数	割合
適切	71	40.11%
ほぼ適切	55	31.07%
どちらともいえない	27	15.25%
やや不適切	12	6.78%
不適切	12	6.78%
合計	177	100.00%



分析と所見

「適切」が 40.11%、「ほぼ適切」が 31.07%であり、約 7 割 (71.18%) の学生が受講した講義のレベルを会計大学院の講義として適切なレベルの講義であると考えていることが分かる。

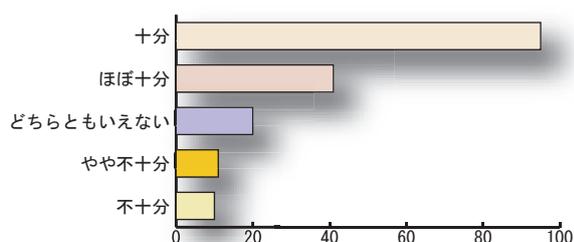
今後の対応

この結果は、今semesterに開講された講義の多くが、会計大学院の講義として適切なレベルであったことを示している。今semesterに開講された科目の多くが、「基礎科目」であった点を考慮すれば、この結果を、「基礎科目」の多くが会計大学院の講義として適切なレベルであったと解釈することが可能である。次のsemester以降、「展開科目」と「実践・応用」科目が開講されていくので、学生がこれらの科目のレベルをどのように評価するか注目していきたい。

質問項目 8: 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか?

集計結果

選択項目	人数	割合
十分	95	53.67%
ほぼ十分	41	23.16%
どちらともいえない	20	11.30%
やや不十分	11	6.21%
不十分	10	5.65%
合計	177	100.00%



分析と所見

「十分」が 53.67%、「ほぼ十分」が 23.16%であり、4 分の 3 以上の学生 (76.83%) が教員の講義に対する準備が十分であったと考えていることが分かる。

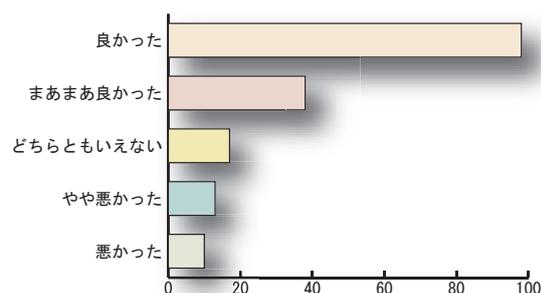
今後の対応

この結果は多くの学生が、教員の講義に対する準備について満足していることを示している。私たち教員は、今後ともこのような評価が得られるよう努力していきたい。

質問項目 9：教員の説明や声など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

集計結果

選択項目	人数	割合
良かった	98	56.68%
まあまあ良かった	38	21.59%
どちらともいえない	17	9.66%
やや悪かった	13	7.39%
悪かった	10	5.68%
合計	176	100.00%



分析と所見

「良かった」が 55.68%、「まあまあ良かった」が 21.59% であり、4 分の 3 以上の学生 (77.27%) が教員のプレゼンテーションを満足のいくものと考えていることが分かる。

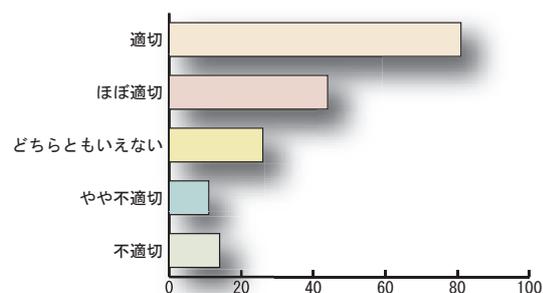
今後の対応

この結果は多くの学生が、講義における教員のプレゼンテーションについて満足していることを示している。私たち教員は、今後ともこのような評価が得られるよう努力していきたい。

質問項目 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

集計結果

選択項目	人数	割合
適切	81	46.02%
ほぼ適切	44	25.00%
どちらともいえない	26	14.77%
やや不適切	11	6.25%
不適切	14	7.95%
合計	176	100.00%



分析と所見

「適切」が 46.02%、「ほぼ適切」が 25.00% であり、約 7 割 (71.02%) の学生がテキストなどの資料が適切であったと考えていることが分かる。

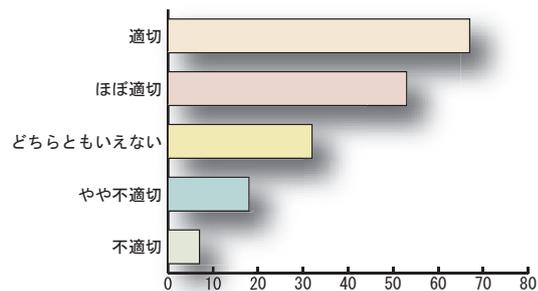
今後の対応

この結果は多くの学生が、講義で用いられたテキスト参考書について満足していることを示している。テキスト・参考書については、現在会計大学院の学生向けに書かれたものが余り多くないのが現状であり、今後このようなテキストが出版されることが予想される。私たち教員は、情報収集に努め、適切と思われるテキストや参考書を選ぶよう努力していきたい。

質問項目 11：板書，プロジェクター等の使用は適切でしたか。

集計結果

選択項目	人数	割合
適切	67	37.85%
ほぼ適切	53	29.94%
どちらともいえない	32	18.08%
やや不適切	18	10.17%
不適切	7	3.95%
合計	177	100.00%



分析と所見

「適切」が 37.85%、「ほぼ適切」が 29.94%であり、約 7 割弱 (67.79%) の学生が板書などに満足していることが分かる。

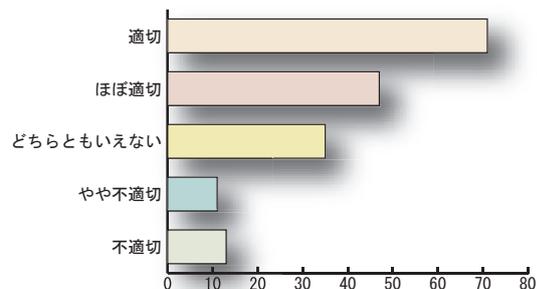
今後の対応

この結果も、多くの学生が板書・プロジェクターの利用に満足していることを示しているが、講義によってはプロジェクターを全く使用しないものもあり、また、この質問項目は質問項目 9 と重複する部分もあると思われるので、次回のアンケートからは質問項目 9 の中に含めることとしたい。

質問項目 12：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

集計結果

選択項目	人数	割合
適切	71	40.11%
ほぼ適切	47	26.55%
どちらともいえない	35	19.77%
やや不適切	11	6.21%
不適切	13	7.34%
合計	177	100.00%



分析と所見

「適切」が 40.11%、「ほぼ適切」が 26.55%であり、3 分の 2 の学生 (66.66%) が成績評価を適切なものと考えていることが分かる。

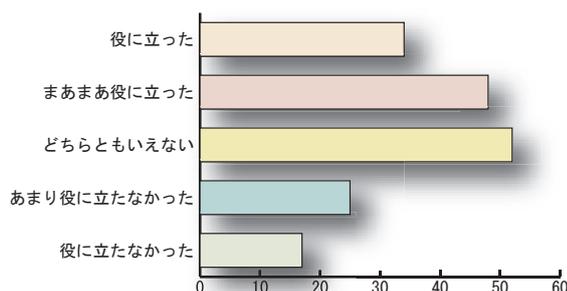
今後の対応

本会計大学院では、成績の評価基準をシラバスに明記し、その基準に基づき成績評価が行われている。この結果は、多くの学生が成績評価基準を妥当なものみなしていることを示している。私たち教員は、現在用いている成績評価基準がベストなものであるとは考えず、より良い評価基準を見いだしていく努力をすべきであるとする。

質問項目 13：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

集計結果

選択項目	人数	割合
役に立った	34	19.32%
まあまあ役に立った	48	27.27%
どちらともいえない	52	29.55%
あまり役に立たなかった	25	14.20%
役に立たなかった	17	9.66%
合計	176	100.00%



分析と所見

「役に立った」が19.32%、「まあまあ役に立った」が27.27%であり、約47%の学生しかシラバスを有用なものとは考えていないことが分かる。

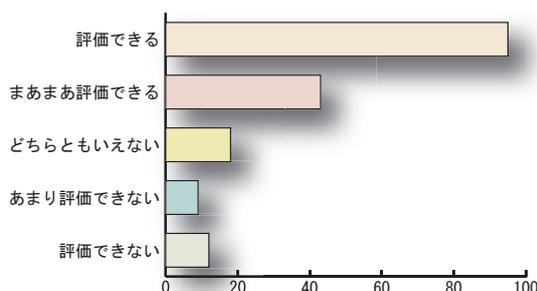
今後の対応

今年度のシラバスは、実際に会計大学院の講義を行う以前に作成されたものであり、学生のレベル・講義の進度等が全く分からないという条件の下で作成された。今回の結果は、この事実を裏付けるかのように厳しい評価であった。私たち教員はこの評価を真摯に受け止める必要がある。次年度のシラバスでは、今年度行った講義の経験を生かし、私たちが目標とするシラバス、すなわち、単なる講義の内容紹介だけでなく、講義の補助教材としても利用できるようなシラバスを作成していきたいと考える。

質問項目 14：総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。

集計結果

選択項目	人数	割合
評価できる	95	53.67%
まあまあ評価できる	43	24.29%
どちらともいえない	18	10.17%
あまり評価できない	9	5.08%
評価できない	12	6.78%
合計	177	100.00%



分析と所見

「評価できる」が53.67%、「まあまあ評価できる」が24.29%であり、8割弱(77.96%)の学生は私たち教員を評価できるものと考えていることが分かる。

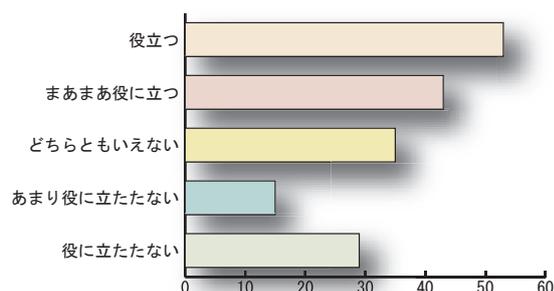
今後の対応

この結果は多くの学生が、会計大学院の教員を評価していることを示している。私たち教員は、今後ともこのような評価が得られるよう努力していきたい。

質問項目 15：この講義は、公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。

集計結果

選択項目	人数	割合
役立つ	53	30.29%
まあまあ役に立つ	43	24.57%
どちらともいえない	35	20.00%
あまり役に立たない	15	8.57%
役に立たない	29	16.57%
合計	175	100.00%



分析と所見

「役立つ」が 30.29%、「まあまあ役に立つ」24.57%であり、約半数 (54.86%) の学生が会計大学院の講義を公認会計士試験のために役立つものと考えていることを示している。

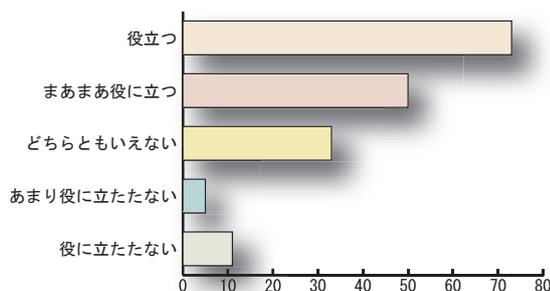
今後の対応

この結果は、50% 弱の学生が会計大学院における講義が公認会計士の試験と直接的に結びつかないと考えていることを示している。会計大学院の講義は、受験予備校のように受験のテクニックを教えるものではなく、職業会計人として必要とされるものの見方・考え方を教えることが目的であるという点を考慮すれば、このような評価がなされることは避けられないものとする。しかし、平成 18 年度から実施される新制度の公認会計士試験において、社会が求めている公認会計士を適切に選択できる試験問題が出題されるものと仮定するならば、私たちは、今後、新制度試験に関する情報を収集し、この試験に対応できるような教育を行っていく必要があると考えている。

質問項目 16：この講義は、公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか。

集計結果

選択項目	人数	割合
役立つ	73	42.44%
まあまあ役に立つ	50	29.07%
どちらともいえない	33	19.19%
あまり役に立たない	5	2.91%
役に立たない	11	6.40%
合計	172	100.00%



分析と所見

「役立つ」が 42.44%、「まあまあ役に立つ」29.07%であり、約 7 割 (72%) の学生が、会計大学院の講義を、今後のキャリアにとって有用なものと考えていることが分かる。

今後の対応

この結果は、多くの学生が会計大学院の講義を公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つものとみなしていることを示している。本会計大学院の設立趣旨に鑑みれば、これは望ましい結果といえる。ただし、私たち教員は、質問項目 15 における厳しい評価も考慮しながら、質の高い公認会計士を継続的に養成できるような教育システムを考えていく必要がある。

4.4. 統計資料による全体的な分析

2005年度前期における開講講義数は27科目であり、そのうち履修者が5名以上の講義（18科目）と科目担当教員がアンケートを希望した講義（3科目）についてアンケートが実施された（表4-1参照）。

- ① 質問2から出席率の高さが分かるが、質問3, 4を見る限り、期待される程の自己学習を十分に行っていないように思える。出席する努力は惜しまないが、能動的に学習するという意欲に欠ける面があり、「出席していれば実力が身に付く」と考えている学生がいるのではないかと懸念される。
- ② 質問6～12および質問14については約70%の回答者が上位2つの選択項目に回答しており、講義の内容や教員を肯定的に評価しているようだが、相関係数（表4-3参照）から読み取れるように、質問6の回答が質問7～14の回答と各々正の相関が高いため、講義内容を理解できたからという理由だけで学生が教員を好意的に評価している恐れもあり、必ずしも楽観的に受け取ることはできない。

4.5. 自己評価と今後の課題

質問6（講義の理解度）、質問7（講義のレベル）、質問8（教員の準備）、質問9（教員のプレゼンテーション）、質問10（テキスト・参考書）、質問11（板書・プロジェクターの利用）、質問12（成績評価）、質問14（教員の評価）、質問16（講義の有用性）については、ほぼ満足の得られる結果であった。私たち教員は、今後ともこれらの項目についてより高い評価が得られるよう努力していきたいと考えている。

以下では、今回のアンケート調査から明らかになった問題点を整理し、今後これらの問題点にどのように対応していくべきかその方針を示す。

① 講義時間外における学生の学習時間の確保

- (1) 質問3・4・5に関するものであり、これらの項目は相互に関連していると考えられ、全体的に解決していく必要がある。
- (2) 講義時間以外に十分な学習時間を確保しなければ、会計大学院の講義を理解することは難しい、すなわち、単に講義に出席し、先生の話聞くという学習態度では何も身に付かない、という点を学生に理解してもらうことが重要である。この意味で、講義1回当たり4～5時間の分量の課題を課すという本会計大学院の方針は間違いではないと考える。
- (3) 予習時間と復習時間の短さが、講義で課される課題の分量に依存するかどうかを検討する必要がある。次回のアンケートでは、この点を考慮した質問項目を準備したい。
- (4) 課題については科目によって難易度・分量等が異なると思われるので、今回の調査結果を教員にフィードバックし、課題の内容等について再検討をお願いしたいと考えている。

② シラバスの改善

- (1) シラバスに成績評価基準を明記し、これに基づき成績が評価されているという点については、シラバは役立っているものと考えられる（質問12より）。
- (2) 本会計大学院のシラバスには、講義毎に内容・目的・課題などが記載されている。今回のアンケート結果は、記載された内容が講義の内容を理解していく上で余り有用ではなかったことを示している。
- (3) 質問13の「今後の対応」でも述べたとおり、次年度のシラバスには今年度行った講義の経験を生かし、内容の充実したシラバスを作成していきたいと考えている。

③ 会計大学院と公認会計士試験の関係

- (1) 今回のアンケート結果は、多くの学生が本会計大学院の講義のレベル・内容や教員について満足していることを示しており、会計大学院の講義が公認会計士となつてからのキャリアにおいて役立つものと考えている。一方、約半数の学生は、会計大学院の講義が公認会計士試験の準備としては不十分な

側面を持つものと評価している。

- (2) 平成 18 年から始まる新試験制度の下でどのような出題がなされるのか不透明な部分が多い。在学生の多くはこの点に大きな不安を抱いているものと考えられる。本会計大学院は、質の高い高度な分析能力を持つ職業会計人を養成することを目的としているので、試験に合格することだけが目的の教育は行わないが、新試験における出題が社会から求められている公認会計士を適切に選択できるようなものであれば、私たちはこれに対応していきたいと考えている。
- (3) この問題は、すべての会計大学院が直面しているだろうと考えられる問題であり、一朝一夕に解決できるとは思えない。今後、私たち教員はこの問題について継続的に議論し、解決策を模索していきたい。

最後に、アンケートの回収率に触れてこの報告を終えることにする。「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」は会計大学院の学生 16 名から回収された（回収率 45.71%）。「会計大学院の授業に関するアンケート」については、177 の回答を回収した（回収率 51.60%）。この回収率は高いとは言い難い。次回のアンケートでは、回収率を高めるような方策を考えていきたい。同時に、在学生については次回の調査にできるだけ協力して頂けることを希望する。

付録1：会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラムの改善に役立てることを目的に行うものです。結果は報告書としてとりまとめます。

1. 該当するものを選んでください。

(5) 公認会計士コース (4) 高度会計職業人コース (3) 経済経営学専攻 (2) 経済学部

2. 基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない

(2) やや不適切である (1) 不適切である

3. セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない

(2) やや不適切である (1) 不適切である

4. オフィスアワーを利用しましたか。教員に履修相談・質問等を行った回数を書いてください。

(5) 5回以上 (4) 4回または3回 (3) 2回 (2) 1回 (1) 利用しなかった

5. セメスター開始時に行われる履修指導は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない

(2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった

6. 本大学院では GPA による成績評価を用いていますが、GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか。

(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない

(2) やや不適切である (1) 不適切である

7. 受験のための自主学習には1日平均何時間くらいかけていますか。

(5) 5時間以上、(4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 1-3時間 (1) していない

8. 会計大学院では、学生への連絡システムとして e-mail を用いていますが、この連絡システムは役に立ちましたか。

(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない

(2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった

9. 在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか。

(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない

10. 今後、新たに開設すべきだと思う科目があれば3つ以内で記入してください。

→自由記入欄に記入して下さい。

質問 10 (3科目以内)

自由記入欄 (会計大学院に対する感想、会計大学院に要望することなどを自由に記入してください。また上のアンケートの各項目について、より詳しい意見を述べたい場合にも、ここに記入してください。)

—以上です。協力を感謝します。

付録2：会計大学院の授業に関するアンケート

このアンケートは、会計大学院の授業の改善に学生諸君の意見を生かそうとするものです。結果は報告書としてとりまとめます。

授業科目名（マークシート用紙に記入）

※注意：この科目が、基礎科目、展開科目、実践・応用科目のどれに該当するか、シラバス等で確認して下さい。

回答者属性

1. 該当するものを選んでください

(5) 公認会計士コース (4) 高度会計職業人コース (3) 経済経営学専攻 (2) 経済学部

科目内容について

2. この講義にどのくらい出席しましたか。

(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満

3. この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか。

(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 2-1時間 (0) 1時間未満

4. この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか。

(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 2-1時間 (0) 1時間未満

5. この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか。

(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 2-1時間 (0) 1時間未満

6. この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない

(2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった

7. この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか。（この講義が、基礎、展開、実践・応用科目のどれに属しているかを考慮して回答して下さい）

(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない

(2) やや不適切である (1) 不適切である

8. 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？

(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない

(2) やや不十分だった (1) 不十分だった

9. 教員の説明や声など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

(5) 良かった (4) まあまあ良かった (3) どちらともいえない

(2) やや悪かった (1) 悪かった

10. テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない

(2) やや不適切である (1) 不適切である

11. 板書、プロジェクター等の使用は適切でしたか。

(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない

(2) やや不適切である (1) 不適切である

12. この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

- (5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない
(2) やや不適切である (1) 不適切である

13. この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

- (5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった

14. 総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。

- (5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない
(2) あまり評価できない (1) 評価できない

15. この講義は、公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。

- (5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たない (1) 役に立たない

16. この講義は、公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか。

- (5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない
(2) あまり役に立たない (1) 役に立たない

17. (自由質問) 教員がアンケートの際に行った質問に回答してください。

- (5) (4) (3) (2) (1)

その他質問 (自由記入欄に番号を記入して下さい。(6) については具体的に記入して下さい)

18. 既に合格した資格試験等について教えてください。(複数解答可)

- (5) 税理士会計科目 (4) 公認会計士短答式 (3) 日商簿記 1 級
(2) 日商簿記 2 級 (1) 日商簿記 3 級 (6) その他

自由記入欄 (この授業の感想、担当教員に要望することなどを自由に記入してください。また上のアンケートの各項目について、より詳しい意見を述べたい場合にも、ここに記入してください。)

—以上です。協力を感謝します。

付録 3 :

	選択項目	人数	割合
設問 1			
回答者属性	公認会計士コース	121	70%
	高度会計職業人コース	16	9%
	経済経営学専攻	26	15%
	経済学部	11	6%
	合計	174	100%
設問 2			
この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	149	85%
	89-70%	17	10%
	69-50%	6	3%
	49-20%	1	1%
	20%未満	3	2%
	合計	176	100%
設問 3			
この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか。	5時間以上	5	3%
	4-5時間	4	2%
	3-4時間	13	7%
	2-3時間	17	10%
	1-2時間	44	25%
	1時間未満	92	53%
	合計	175	100%
設問 4			
この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか。	5時間以上	13	7%
	4-5時間	7	4%
	3-4時間	14	8%
	2-3時間	41	23%
	1-2時間	65	37%
	1時間未満	35	20%
	合計	175	100%
設問 5			
この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか。	5時間以上	47	27%
	4-5時間	21	12%
	3-4時間	24	14%
	2-3時間	37	21%
	1-2時間	19	11%
	1時間未満	25	14%
	合計	173	100%
設問 6			
この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	30	17%
	ほぼ理解できた	90	51%
	どちらともいえない	31	18%
	あまり理解できなかった	13	7%
	理解できなかった	13	7%
	合計	177	100%
設問 7			
この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	71	40%
	ほぼ適切	55	31%
	どちらともいえない	27	15%
	やや不適切	12	7%
	不適切	12	7%
	合計	177	100%
設問 8			
教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	95	54%
	ほぼ十分	41	23%
	どちらともいえない	20	11%
	やや不十分	11	6%
	不十分	10	6%
	合計	177	100%

	選択項目	人数	割合
設問 9			
教員の説明や声など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。	良かった	98	56%
	まあまあ良かった	38	22%
	どちらともいえない	17	10%
	やや悪かった	13	7%
	悪かった	10	6%
合計	176	100%	
設問 10			
テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	81	46%
	ほぼ適切	44	25%
	どちらともいえない	26	15%
	やや不適切	11	6%
	不適切	14	8%
	合計	176	100%
設問 11			
板書、プロジェクター等の使用は適切でしたか。	適切	67	38%
	ほぼ適切	53	30%
	どちらともいえない	32	18%
	やや不適切	18	10%
	不適切	7	4%
	合計	177	100%
設問 12			
この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。	適切	71	40%
	ほぼ適切	47	27%
	どちらともいえない	35	20%
	やや不適切	11	6%
	不適切	13	7%
合計	177	100%	
設問 13			
この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	34	19%
	まあまあ役に立った	48	27%
	どちらともいえない	52	30%
	あまり役に立たなかった	25	14%
	役に立たなかった	17	10%
合計	176	100%	
設問 14			
総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。	評価できる	95	54%
	まあまあ評価できる	43	24%
	どちらともいえない	18	10%
	あまり評価できない	9	5%
	評価できない	12	7%
合計	177	100%	
設問 15			
この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	53	30%
	まあまあ役に立つ	43	25%
	どちらともいえない	35	20%
	あまり役に立たない	15	9%
	役に立たない	29	17%
合計	175	100%	
設問 16			
この講義は公認会計士になったか、らのキャリアに役立つと思いますか。	役立つ	73	42%
	まあまあ役に立つ	50	29%
	どちらともいえない	33	19%
	あまり役に立たない	5	3%
	役に立たない	11	6%
	合計	172	100%

2005年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	青木 雅明
委員	伊藤 健
委員	伊東 俊彦
委員	小沢 浩
委員	乙政 正太
委員	鴨池 治
委員	下村 英紀
委員	ダニエル・ドーラン
委員	藤本 雅彦
委員	細谷 雄三

会計大学院アンケート実施報告書 2005年度春

2005年10月20日発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会